生活バスよっかいち沿線見どころマップ

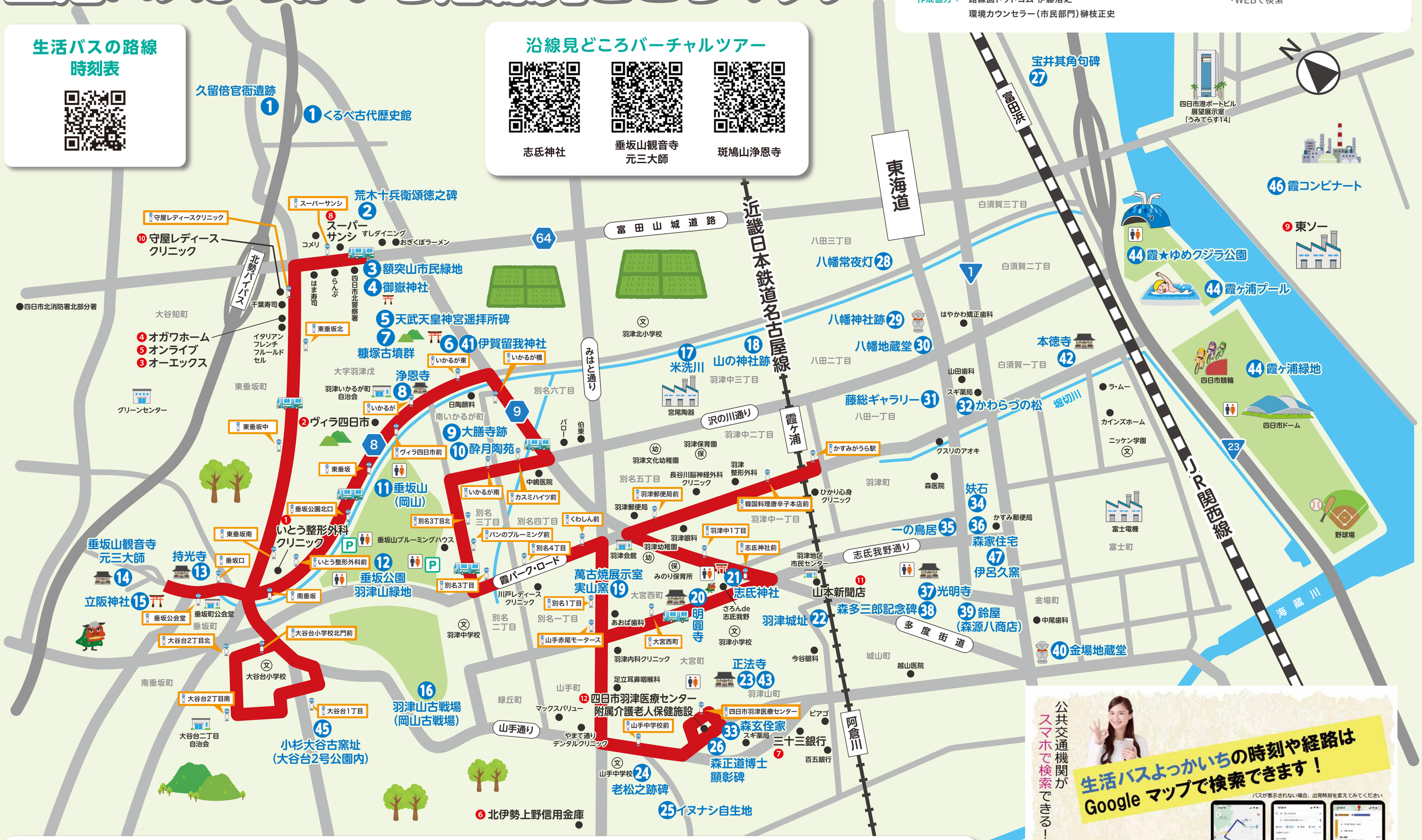
作成： 生活バスよっかいち沿線見どころマップ作成スタッフ
発行年月日：令和5年3月
作成協力： 路線図ドットコム 伊藤浩之
環境カウンセラー（市民部門）榊枝正史

参考資料 ・羽津ふれあいマップ（H27年8月発行）
・大矢知地区ふるさとMAP（R2.3月吉日）
・WEBで検索

生活バスの路線時刻表

沿線見どころバーチャルツアー

志氐神社　垂坂山観音寺元三大師　斑鳩山浄恩寺



協賛企業

（50音順・敬称略）（令和5年3月現在）

1. いとう整形外科クリニック
2. ヴィラ四日市
3. オーエックス株式会社
4. 株式会社オガワホーム
5. オンライブ株式会社
6. 北伊勢上野信用金庫
7. 三十三銀行
8. スーパーサンシ大矢知店
9. 東ソー株式会社
10. 守屋レディースクリニック
11. 山本新聞店
12. 四日市羽津医療センター

協力自治会

大谷台二丁目自治会　羽津いかるが町自治会
大谷台地区連合自治会

生活バス沿線 見どころマップ 見どころ紹介

協賛企業 （50音順・敬称略）（令和5年3月現在）

いとう整形外科クリニック／ヴィラ四日市／オーエックス株式会社／株式会社オガワホーム／オンライブ株式会社／北伊勢上野信用金庫／三十三銀行／スーパーサンシ大矢知店／東ソー株式会社／守屋レディースクリニック／山本新聞店／四日市羽津医療センター／珈琲屋らんぷ四日市店

協賛企業バーチャルツアー

・スーパーサンシ大矢知店
・珈琲屋らんぷ四日市店
・守屋レディースクリニック
・ヴィラ四日市

1 （国指定史跡）久留倍官衙遺跡、くるべ古代歴史館（くるべかんがいせき、こだいれきしかん）

平成18年(2006年)には、古代「伊勢国朝明郡」の郡衙(郡家)跡である可能性が高いとして、「久留倍官衙遺跡」の名称で国の史跡に指定されました。

2 荒木十兵衛頌徳之碑（あらきじゅうべいしょうとくのひ）

荒木十兵衛は伊賀留我の住人で、元禄5年(1692年)から宝永3年(1706年)までかかって、大矢知まで来ていた用水路を延長して羽津用水を開削し、羽津村を干ばつから救った恩人とされる。

3 額突山市民緑地（ぬかづきやましみんりょくち）

自然を里山として、子どもたちに残していきたいという地域の強い思いから、羽津地区のまちづくり構想のなかで、額突山を整備し、市民緑地としてオープンした。

4 福徳寿御嶽神社（ふくとくじゅぉんたけじんじゃ）

御嶽信仰に篤い觸地区の方が勧請したもので、昭和20年代(1945～)に祀られた。社地は、昔の山神社の跡地である。

5 天武天皇神宮遥拝所碑（てんむてんのうじんぐうようはいしょひ）

糠塚山の山頂にあり、大海人皇子が天照大神を遥拝した場所を示すものとして大正4 年(1916)に建てられた。遥拝場所については諸説があり確定していない。

6 伊賀留我神社（いかるがじんじゃ）

創記年代は不明であるが、社伝によると垂仁天皇の命を受け倭姫命が天照大神を奉じて祀る場所を求め、能代宮(桑名)から忍山宮(鈴鹿)への遷幸中に休んだ場所に、額田部氏の子孫が天照大神の荒御霊を祀ったのが起源という。

7 糠塚古墳群（ぬかづかこふんぐん）

埴輪や須恵器が見つかっており、以前から山頂に古墳があると言われていたが2021年に市民緑地として整備中に須恵器が発見され、古墳群であることが確認された。

8 斑鳩山浄恩寺（はんきゅうざんじょうおんじ）

長享2年(1488年)本願寺第八世蓮如上人が当地に立ち寄られた際に、時の斑鳩山大膳寺の住職円尓が、その教化を受け大膳寺を出、草案を結んだのを始めとする。浄土真宗本願寺派に属する。境内には本山格寺院以外では珍しい聖徳太子堂がある。

9 （市指定史跡）大膳寺跡（だいぜんじあと）

大膳寺は、垂坂観音寺を創建した慈恵大師良源の弟子覚鎮が天延2年(974年)に築いたとされ、天台宗の寺院だった。天正2年(1574年)に織田信長勢によって一宇も残さず焼き払われ詳細不詳。

10 酔月陶苑（すいげつとうえん）

萬古焼の伝統工芸士である清水酔月氏の手による伝統的な萬古焼作品のほか、酔月夫人による絵付けや二人のご子息による現代感覚を取り入れた作品などを見ることができる。見学は予約を受け付けた場合のみ可。(TEL 059-332-8218)

11 垂坂山（岡山）（たるさかやま おかやま）

羽津地区の西部丘陵岡山を、自然を生かした公園として整備したものである。展望台からは羽津地区が一望のもとに見渡せ、夜景スポットとしても知られている。芝生広場では毎年、羽津中学生らによる「山のコンサート」が催される。
壬申の乱(672年)の際に、大海人皇子がここで修行をしたことから御祓(みそぎ)岡と名づけられたが、いつしか岡山と略して呼ばれるようになった。垂坂山と呼ばれるようになったのは戦後のことである。

12 垂坂公園・羽津山緑地（たるさかこうえん・はづやまりょくち）

13 金剛山持光寺（こんごうさんじこうじ）

浄土真宗本願寺派(西本願寺)に属し、縁起年表によれば1230頃、圓正律師(えんしょうりっし)が尾張海西郡に興善寺を草創。明応8年(1532頃)員弁郡持光寺建立。天正6年(1578)小杉持光寺を創立。その後、明治17年(1884)垂坂へ移転された。

14 垂坂山観音寺元三大師（たるさかやまかんのんじがんさんだいし）

観音寺は、平安時代の延長6年(928年)に慈恵大師(元三大師)が大乗受戒について、伊勢国に留錫、当時朝明郡の領主の帰依を受け、伽藍を建立した地である。お寺には慈恵大師座像が伝わり、国の指定重要文化財に指定されている。

15 （市指定無形民俗文化財）立阪神社獅子舞（たつさかじんじゃししまい）

毎年10月に立阪神社の大祭で獅子舞が行われている。立阪神社の獅子舞は、およそ170年前の弘化元年に垂坂町と他の麹組合の間で訴訟が生じ、垂坂町がそれに勝訴したのを祝って始まったとされ、四日市市の無形民俗文化財に指定されている。

16 羽津山古戦場（岡山古戦場）（はづやまこせんじょう おかやまこせんじょう）

「北畠系譜」によると文中元年(1372年)岡山山頂に陣取った国司側の大宮父子入道勢と義から攻め上る守護の仁木義長勢が戦い、守護側が全滅したという。この宝篋院塔は、付近に多数の霊が漂っていると感じた伊賀予野の僧が鎮魂のために建てたもの。

17 米洗川（よなざがわ）

「日本書紀」には、大海人皇子が天照大神を遥拝したのは迹太川の辺と記されており、この迹太川が米洗川だとする説がある。米洗川の名前も遥拝の際の神撰米をこの川で洗ったことに由来すると伝えられる。

18 山の神社跡（やま かみやしろあと）

山神社は約110年前まで、近鉄名古屋線の山側にあった。現在、山神のご神体(大山祇命)は大宮町の志氏神社に祀られていて、跡地は地区の関係者が維持管理をし、毎年11月6日に山神社祭礼を行っている。

19 萬古焼展示室実山窯（ばんこやきてんじしつじつざんがま）

萬古焼の伝統工芸士である伊藤実山氏の手による急須や煎茶道具などの数々の萬古焼の作品の他、実山夫人による今では伝承者も少なくなった型萬古作品などを見ることができる。見学は予約を受け付けた場合のみ可。(TEL059-332-9392又はFAX059-331-0934)

20 放光山明圓寺（ほうこうざんみょうえんじ）

元は天台宗の精舎とされるが創立・沿革は不詳。長享2年(1488)、本願寺第八世蓮如上人が当地方を巡教された際に、時の住職正了師が、その教化を受け浄土真宗に改宗した。浄土真宗本願寺派に属する。

21 志氏神社（しでじんじゃ）

延喜式の名神小社で気吹戸主神を主神として祀り、相殿に伊邪那岐命と伊邪那美命を祀る。社伝によると垂仁天皇の時代に勧請したとされる。垂仁天皇の時代は紀元前後になるが実際には4世紀ごろといわれる。

22 （市指定史跡）羽津城址（はづじょうし）

応永年間(1394～1428年)に上野国赤堀庄から赤堀(当時は栗原)に来て、赤堀城を築いた赤堀肥前守景信の長男盛宗によって、応永5年(1398年)に築城された。その後、小牧・長久手合戦の際に豊臣秀吉が陣を置いたが、講和により廃城となった。

23 （県指定有形文化財）正法寺地蔵菩薩像、延命山正法寺（しょうぼうじじぞうぼさつぞう、えんめいざんしょうぼうじ）

応永年間(1394～1427年)に初代羽津城主赤堀右衛門大夫盛宗が能登殿持寺より実峰良秀禅師を招いて開山し、羽津赤堀氏6代の菩提寺として栄えた。曹洞宗大本山総持寺直末寺院である。本尊の地蔵菩薩坐像は県指定文化財である。

24 老松之跡碑（おいまつのあとひ）

江戸時代の寛延3年(1750年)に羽津村と阿倉川村の間で志氏我野の境界をめぐり紛争が起きた。大岡越前守など幕府の要人11人による評議で境界が確定した。(判決文書は市指定文化財)この時、境界線上に目印となる4本の松が植えられた。

25 （国指定天然記念物）イヌナシ自生地（じせいち）

イヌナシは、野生ナシの中で最も原始的な種であり、その果実は直径約1cmで、マメナシとも言われている。原始的な性質を呈しており、その強健な性質ともに栽培ナシの系統研究及び品種改良の資料として植物学上の基準標本となっている。学術的に価値の高いものとして国指定天然記念物となっている。

26 森正道翁顕彰碑（もりまさみちおうけんしょうひ）

森正道博士は、2度のドイツ留学をするなど、当時の最先端の医学者で、小児科・産婦人科医として名声を博した。羽津病院(現在の四日市羽津医療センター)を創設した。

27 宝井其角句碑（富田浜）（たからいきかくひ とみだはま）

この句碑は元禄時代に俳人宝井其角が当時桑名領に属していた富田茶屋町(現在富田三丁目)を通過の際、旅籠尾張屋焼蛤を食し、その風味を称えて読んだ句蛤の焼かれて鳴くや郭会(ほとときす)を句碑として残したものである。

28 八幡常夜灯（やわたじょうやとう）

米洗橋北に建っており、明治35年(1902年)に建立されたものである側面には20数の寄進者の名前が刻まれている。この常夜灯は、堤防の改修や道路の拡幅の度に移設され現在地に落ち着いたという。

29 八幡神社跡（はちまんじんじゃあと）

勧請年代は不詳であるが、江戸時代には一国一社の八幡神社として皇国66拝の一つとして名が聞こえていたといい、村名も神社に因んで八幡村となった。明治の合祀令により志氏神社に合祀され、旧社地には社名碑だけが残っている。

（市指定史跡）志氏神社古墳（しでじんじゃこふん）

神社拝殿の西にある宮森が古墳で、四日市市唯一の前方後円墳とされる。現存しているのは後円部のみで前方部は社務所造営の際に削り取られてしまっている。前方部は現在万葉歌碑がある方向に延びていたようである。

（市指定有形文化財）志氏神社古墳出土品（しでじんじゃこふんしゅつどひん）

江戸時代(1852年)に、前方部と後円部の境あたり(四日市市史では墳頂部になっている)から車輪石や古鏡の破片、勾玉など古墳の副葬品の一部が出土した。これらは市指定有形文化財となっており、志氏神社に保管されている。

30 八幡地蔵堂（やわたじぞうどう）

現在は八田第一自治会の集会所横にある地蔵堂だが、昔は米洗川右岸堤防付近にあり、八幡神社が志氏神社に合祀された後に、現在地に移された。この地蔵像は仏像の知識に乏しい石工が彫ったらしく、蝶髪に来迎印という阿弥陀如来の姿形になっている。

31 藤総ギャラリー（ふじそう）

萬古煎茶を愉しむ絞り出し至高急須の窯元である藤総製陶所が運営する和風陶芸ギャラリーで、焙烙急須など館長のこだわりが感じられる作品が展示されている。平日のみ開館。予約は不要。
(TEL059-331-4492)

32 かわらづの松（まつ）

かつては東海道の至る所にあった松並木も市街化により切り倒されたり、松喰い虫により枯死してほとんどが姿を消しここと日永の2本だけになってしまい「かわらづの松」と呼ばれている。

33 森玄侭家（もりげんせんけ）

室町末期から漢方医として代々続いてきた名家で「山の医者」と呼ばれた。羽津の丸薬鎮驚丸の製造販売元でもある。羽津病院(現在の四日市羽津医療センター)を開設した。母屋は明治16年(1883)に建てられたもの。

34 妹石（夫婦石）（みょといし、めおといし）

東海道の志氏神社一の鳥居の北側に、東海道を挟んで道の両側に約1mと50cmの自然石が向かい合って置かれている。これを夫婦石といい、往時、行き交う旅人がこれを撫でて縁結びや夫婦円満を祈ったといわれる。

35 一の鳥居（志氏神社一の鳥居）（いちのとりい しでじんじゃいちのとりい）

東海道に面して建っており、鳥居から志氏神社に至る道がかつての表参道で宮道という。鳥居の北隣りは羽津村の庄屋だった伊藤家があったところで、現在常夜灯がある辺りには高札場もあって村の中心地だった。

36 （国登録有形文化財）森家住宅（もりけじゅうたく）

明治9年(1876年)の建築で国登録有形文化財に登録されている。森家は酒屋、薬屋、廻船問屋、質屋などを営んでおり、当時の町家の趣を伝える。屋根は入母屋式で、切妻式が普通だった中では珍しい様式である。隣接する二階建ての白壁が美しい土蔵も国登録有形文化財に登録されている。

37 初野山光明寺（はつのざんこうみょうじ）

真言宗の寺院として大矢知にあったが、寛正元年(1460年)浄土真宗高田派の開祖真慧上人が来られて高田派に転じた。真慧上人の死後、高田派を離脱した。享禄年間(1528年～32年)東海道沿いの荒野に移転し、後に浄土真宗本願寺派に転じた。

38 森多三郎記念碑（もりたさぶろうきねんひ）

森多三郎は江戸時代に羽津村の肝煎(副庄屋)だった人で、文久元年(1861年)桑名藩の過酷な増税に抵抗してこれを阻止したとされる。翌年、藩庁に呼び出されが毒を盛られ、光明寺の門前にたどりついた所で息絶えた。光明寺境内に記念碑と墓碑がある。

39 鈴屋（森源八商店）（すずや もりげんぱちしょうてん）

明治28年JR関西線が敷設される迄は、伊勢神宮参拝者の東海道の往復は多く、鈴は土産物として果実、米芋の鈴なり(沢山)の収穫を願う意味を含め参拝者に買い求められた郷土玩具品であった。今は作られてはいないが森源八商店が鈴屋と称していた。

40 金場地蔵堂（かねばじぞうどう）

八幡の地蔵尊と同じ一つの石から作られたという。昔は、二重川に架かる堺橋のたもとにあったが、昭和48年に二重川を暗渠化し市道を拡幅する工事の際に現在地に移設された。

41 日待ち神事（ひまちしんじ）

伊賀留我神社で毎年、祈年祭の前夜に行われる神事で、精進潔斎の忌籠りに由来し、その歴史は古く、江戸時代後期の天明4年(1784年)頃と伝えられる。かつては、大祭の都度行われていたが、現在は簡素化され、続いている。

42 本徳寺（ほんとくじ）

八幡村白須賀新田の長令久志本又左衛門の次男小太郎直次は天保15年(1844年)出家して見徳を名乗り、白須賀新田に堂を構えた。その後、桑名別院を通じて、山号寺号を取得し、無量山本徳寺を開基するに至った。浄土真宗大谷派に属する。

43 あんどん祭り（まつ）

羽津山町の正法寺境内にある祠に祭られている役行者に因んだ祭りで、子どもたちが和紙に描いた絵を貼った行燈を参道に掛け並べることからあんどん祭りと呼ばれる。

44 霞ヶ浦緑地、霞ヶ浦プール、霞★ゆめクジラ公園（かすみがうらりょくち かすみがうら かすみ こうえん）

かつて、霞ヶ浦の海岸は、白砂青松の海岸だった。大正時代になって別荘地及び(有料)海水浴場として再開発したが、伊勢湾台風で被害を受けて以降、衰退した。昭和40年代になり霞コンビナートが建設される際に、緩衝緑地として整備され、運動施設などが設置された。平成10年には四日市ドームが建設された。

大型遊具で県内随一の規模を誇る。目玉である、高さ9.6メートルから下る全長50メートルのローラースライダーの他、市の伝統行事である鯨船を題材にした遊具もある。

50mプール25mプールのほか、流水プールや幼児・子どもプールもあり、夏季には児童や親子連れで賑わう。

45 小杉大谷古窯址（こすぎおおたにこがまあと）

須恵器、埴輪を焼いた窯(あながま)窯で市内で最も古い5世紀末ごろのものである。昭和48年(1973年)に発掘調査され、全長5.5m、最大幅1.3mの窯体が検出された。

46 四日市港ポートビル・コンビナート夜景（よっかいちこう やけい）

四日市港の開港100周年を記念して建てられた高さ100mのビル。最上階(14階)からは臨海工業地帯、四日市港の景色、鈴鹿山脈などを一望できる。また、映像、展示等により四日市港の歴史、働きなどを学ぶことができる。

コンビナート夜景が静かなブームになっており、四日市はコンビナート夜景の聖地と呼ばれている。中でも四日市港ポートビルから見下ろす霞コンビナートは、他では見られない絶景である。

47 伊呂久窯（いろくがま）

初代伊呂久は明治時代半ばからやきものを始めた。伊呂久の名は当時の職人から受け継いだもの。萬古急須の特徴である松皮(松の樹皮のような模様)の技法も引き継いで創作を続けている。